

音楽の感受に関するスペインと日本の比較研究(1) —Biblioteca de Catalunya主催による演奏会の分析から—

平井 李枝

宇都宮大学共同教育学部研究紀要 第71号 別刷

2021年3月

音楽の感受に関するスペインと日本の比較研究 (1)

—Biblioteca de Catalunya 主催による演奏会の分析から—

Comperative studies on receptivity of music in people of
Spain and Japan Vol.1
—Based on analysis of concerts "Dra.Rie HIRAI, Fashionable Classical
Concert" organized by Biblioteca de Catalunya—

平井 李枝[†]
HIRAI Rie

概要 (Summary)

本研究は、筆者が令和1年5月1日から12月31日にかけてスペインで行った「音楽の感受に関するスペインと日本の比較研究」の中からBiblioteca de Catalunya主催による4つの演奏会を分析し、演奏会のアプローチ法について論じたものである。筆者がこれまでに研究を重ね確立してきた方法が、スペインにおいても同様の効果をもたらすことが明らかになった。

This thesis is a comparative studies on "Receptivity of music in people of Spain and Japan" conducted by the author from May 1st to December 31st of 2019 in Barcelona of Spain.

This thesis based on practical research through four concerts "Dra.Rie HIRAI, Fashionable Classical Concert" organized by Biblioteca de Catalunya performed by Dr.Rie HIRAI.

キーワード：音楽, 音楽の感受, スペイン, スペインと日本, 比較研究

1. はじめに

本研究は、音楽の感受についてスペインと日本を比較し、論じるものである。

筆者は令和1年5月1日～8月25日(117日間)および、令和1年10月1日～12月31日(92日間)の期間、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(先端型)」宇都宮大学 女性研究者海外派遣制度によりスペイン・バルセロナのBiblioteca de Catalunya (カタルーニャ国立図書館)招聘研究員として研究を行うことができた。Biblioteca de Catalunyaはカタルーニャ自治州政府、文化省の機関である。筆者はスペイン音楽の研究により博士(音楽)を取得したため、Biblioteca de Catalunyaは、2008年よりの研究拠点であった。2011年にはスペイン音楽研究に貢献したとして、同図書館から栄誉賞を受賞している。

令和1年は「スペイン音楽に関する一次資料の調査」および「音楽の感受に関するスペインと日本の比較研究」を行った。

[†] 宇都宮大学 共同教育学部(連絡先: rie@cc.utsunomiya-u.ac.jp 平井李枝)

「音楽の感受に関するスペインと日本の比較研究」では

- ① クラシック音楽における演奏会のアプローチ法に関する実践研究
- ② 医療現場における音楽の重要性 (Vall d'Hebron 大学病院における実践研究)

の2種類の研究を行った。

①では筆者がこれまで研究を重ね確立してきた日本国内での演奏会のアプローチ法（演奏会のスタイル）が、スペインにおいてどのように受け入れられるのか、Biblioteca de Catalunya, Arxiu Joan Maragall, Vall d'Hebron Barcelona Hospital Campus, Casa Beethoven, Centre Sant Pere Apòstol, Ca l'Arnau, Petit palace Museum, Hotel Lléo, Meridien Barcelona, Alta Diagonalをはじめとする会場で実践的に研究した。筆者の演奏会スタイルは、聴衆に熱狂的に受け入れられ、結果として60回もの演奏会を開催することとなった。

本論文は(1)とし、カタルーニャ国立図書館の主催により開催した4つの演奏会を対象に、筆者の演奏会スタイルがなぜ聴衆に受け入れられたのかを分析し、論じることとする。

2. 研究の背景と研究の方法

これまで筆者は演奏会のアプローチ方法について、様々な実践を行い、その効果を明らかにしてきた。一般的にクラシック音楽の演奏会では、演奏者はプログラムの最初から最後まで一言も発せず演奏のみを行うスタイルが主流である。演奏者が自らマイクを持って解説を行うことは稀であり、これは世界共通である。一方、トークコンサートといわれる演奏会では、演奏者がプログラムの合間話をするが、聴衆が気楽に鑑賞できるよう、演奏曲目は一般的によく知られた楽曲に特化されているという特徴が見られる。一部ではセミクラシックなどと呼ばれている。

これは筆者自身が高校生の時の苦い体験である。音楽高校に在籍していた筆者は、某有名ピアニストの演奏会に出かけたが、未知の楽曲でプログラムが構成されていた。ピアニストは一言も話さず、曲の合間にお辞儀をすることもなく、すべてを演奏しきってしまった。気が付いた時にはプログラムのすべてが終わっていた。筆者は演奏会の間、何の曲が演奏されているのかすら理解できなかった。ピアノの専門教育を受けている筆者にとっては大変なショックであった。プログラムには楽曲解説が付されていたが、当日は演奏者の都合によりプログラムが大幅に変更されており、それは演奏会終了後、ホール出口の掲示物により初めて知ることとなった。

このような体験から、筆者は演奏会のスタイルについて考察するようになり、新たなアプローチ法の考案が必要であると考え、研究を行ってきた。一般的なクラシック音楽の演奏会では、プログラムに付された楽曲解説は理解を深めるために非常に有効な手段であるが、演奏中は客席が暗いため、文字を読むことは困難である。さらに紙をめくる音など非常識な行為とされているため、聴衆は解説を開演前や休憩中に読み込む必要があった。クラシック音楽の演奏会は、聴衆に教養と事前学習を求めているようなものであり、非常に緊張感を生み出す。知らないものを知ったかぶりをして緊張しながら聴くこと、それこそがクラシック音楽の敷居を高くしていることが筆者の研究により明らかになった。

そこで筆者は「Dr. りえのおしゃれなクラシック」という楽曲の解説を演奏の前に行う新たなアプローチ方法によるクラシック音楽の演奏会スタイルを考案し、183回もの演奏会を行ってその効果を明らかにしてきた。聴衆にとって難解で専門的な楽曲であったとしても、演奏前にその楽曲について解説または講義を行うことで、理解を深めることができ印象付けることができるというものである。

2011年に筆者がBiblioteca de Catalunya主催の演奏会で同様に演奏前に楽曲解説を行おうとしたところ、広報担当者が「ピアニストなのに何故話す必要があるのか。聴衆はその音楽をみんな知っているのに」と言った。そこで筆者は、プログラムの中から一曲演奏し、「これが何の曲なのかわかりますか?」と問いかけた。案の定、わからなかったため、好きなスタイルで演奏会を行って良いことになった。2012年にも解説付き演奏会「KIZUNA」を開催し、高評を得た。

今回の、カタルーニャにおける演奏会でも、演奏の前に楽曲解説を行うアプローチ方法を用い、その音楽が聴衆にどのように受け入れられるか、「Dr.りえのおしゃれなクラシック」の海外版として「Dra.Rie HIRAI, Fashionable Classical Concert in Barcelona」を開催し、研究を行うこととした。

・使用言語について

バルセロナはスペイン東部のカタルーニャ自治州に位置し、公用語はカタルーニャ語となっている。筆者が研究拠点としていたBiblioteca de Catalunya (カタルーニャ国立図書館) も同様であるため、筆者の解説はすべてをカタルーニャ語で行うこととした。そのため、作曲者の表記もカタルーニャ語となっている。

・演奏会の記録について

本研究では、演奏会のすべてを録音、ビデオ録画、写真で記録している。一部の演奏会では録画機器を舞台上に設置し、演奏者(筆者)と聴衆の双方が記録されるようにしたことで、感受の過程を分析している。また現地での報道、批評、聴衆へのアンケート、インタビュー、聴衆からの感想文なども検証の根拠としている。

・本論文の対象とする演奏会について

本論文の分析対象とする演奏会は、Biblioteca de Catalunya (カタルーニャ国立図書館) 主催による4回のシリーズである。タイトルは「Dra.Rie HIRAI FASHIONABLE CLASSICAL CONCERT IN BARCELONA」Vol.1～4である。演奏に関する筆者への報酬は、「無し」とし、研究の一環であるため、入場料も無料とした。集客等、広報宣伝は、Biblioteca de Catalunyaの広報担当が行った。以下に対象となる演奏会を列挙する。

Dra.Rie HIRAI, FASHIONABLE CLASSICAL CONCERT IN BARCELONA

Dra.Rie HIRAI (平井李枝) によるソロリサイタル

ピアノ、ソプラノ(弾き歌い)、作曲作品の新作発表

Vol.1 令和1年6月6日 Biblioteca de Catalunya

Vol.2 令和1年7月2日 Biblioteca de Catalunya

Vol.3 令和1年12月4日 Arxiu Joan Maragall
(Biblioteca de Catalunya)

Vol.4 令和1年12月11日 Biblioteca de Catalunya

(注) Vol.3の会場 Arxiu Joan Maragall は Biblioteca de Catalunya の別館である。



写真1 Vol.1 プログラムの表紙

・演奏曲目について

筆者は2012年内閣府国家戦略室より「世界で活躍し『日本』を発信する日本人」に選出されており、海外で日本の良さを発信する役目を担っている。そのため、筆者の演奏会では、日本とスペインおよびカタルーニャの音楽文化交流に資する目的も重要事項とした。

そのため、プログラムは筆者の専門分野スペイン音楽を中心とするクラシック音楽、および日本人作曲家の楽曲を中心に構成することとした。また聴衆からのリクエストなども考慮した。

・聴衆について

Biblioteca de Catalunya (カタルーニャ国立図書館) 主催で開催したDra.Rie HIRAI, Fashionable Classical Concert in Barcelonaは入場は無料とし、聴衆は学識経験者、音楽愛好家、一般と多岐にわたる。筆者の演奏会では、約200名の定員に対し、聴衆はほぼスペイン、フランスをはじめとする外国人であり、日本人の聴衆は一回あたり2人以下であったことから、海外における音楽の感受の研究として、日本と比較する場合に最適な検証であるといえる。

2. 実地調査

2-1 カタルーニャと音楽

日本とカタルーニャの音楽的な相違点を述べる。これは音楽の感受に対する根本的な背景となり得るためである。

カタルーニャでは、日常的にどこでも音楽が流れていた。レストランやカフェなどで音楽が流れているのはもちろんであるが、外から楽器を担いだ人たちが入ってきて、演奏していくというようなことも日常的であった。野外レストランやカフェなどでの路上ライブ、また観光名所における路上演奏のようなものも深夜12時頃まで、頻繁に行われていた。ロック、ポップス、民族音楽、オペラ、合唱、打楽器の集団パフォーマンスなど、筆者が目撃しただけでも多種多様である。さらに、駅構内だけでなく、電車や地下鉄の車内での大音量ライブパフォーマンスも日常的に行われていた。キャリアカートにカラオケスピーカーを積んで、歌唱パフォーマンスを行う人物、ギターを演奏しながら歌を披露する人物、ジプシー・ヴァイオリンやアコーディオンなどの演奏家、車内の様々な物を打楽器に見立てて即興パーカッションパフォーマンスを行うグループなど、多種多様であった。

また休日になると、広場でコブラCobraという吹奏楽団による生演奏に合わせて、サルダーナSardanaという民族舞踊が行われたりしていた。また、張りぼての大きな人形を使ったお祭りでも、チャルメラのような音質の笛(フラビオールFrabiol)と太鼓、歌などで大音量の民族音楽が奏でられていた。

筆者が滞在中、何度もデモ行進に遭遇したが、そのような場面においても、大音量で打楽器やフラビオールを演奏し、歌を歌いながら踊っていた。

また特筆すべきは、15分おきに時を知らせる教会の鐘の音である。鐘の音も音楽の一種である。たくさんの教会から一斉に鐘が打ち鳴らされ、街中に鐘の音が響き渡るのである。彼らは15分間隔で鳴らされる鐘の数を数えて時を知る。15分単位を重要としているためか、時間に対して非常に寛容であった。また、サグラダ・ファミリアのように特定の時刻に鐘で音楽を奏する教会もみられた。

ピアノは、楽器店だけでなく、ホテルやカフェ、書店、理髪店、病院などにも置かれ、市民を対象とした小さな演奏会場として機能していた。このような場所での小さな演奏会は、音楽を身近に感じ

られるため、音楽愛好家のすそ野を広げる上で効果を発揮している。

彼らは音楽を耳にすると、一緒に歌ったり、手拍子をしたり、身近なものを打楽器にしてリズムを付加させたり、一人で踊ったり、カップルで踊ったりと、とても嬉しそうに音楽を楽しんでいた。

カタルーニャは音楽や音に対して、非常に寛容な社会であるといえる。電車内で音楽を演奏するなど、イヤホンからの音漏れでさえ気を遣う日本であれば苦情が殺到しそうであるが、そのようなことは全くなく、一緒に歌ったり踊ったり、そこで出会う音楽を受け入れ楽しむ文化ができていた。

2-2 「ピアニスト」という言葉の意味の違い

日本で「ピアニスト」と呼ばれるのは、プロの演奏家である。しかし、カタルーニャにおいて同様の「ピアニスタ」とはピアノが弾ける人を指しており、少しでもピアノが弾ければ誰でも「ピアニスタ Pianista」と呼ばれていた。そのため、ピアノ愛好家は非常に多く、彼らは演奏技能の上手い下手に関わらず、嬉しそうに音楽を奏でていた。

筆者はプロのピアニストであるため、区別されており、プロ演奏家を指す「コンサーティスタ Concertista」と呼ばれていた。また指導者としては「プロフェッソラ Professora」、博士としては「ドクター Doctora」と呼ばれていた。このように愛好家と専門家は区別されている。

2-3 カタルーニャと日本

2019年のバルセロナでは、日本への親しみと憧れや尊敬をこれまでより実感することが多く、文房具、家電、ゲーム、おもちゃ、パソコン、自動車、ピアノ、KARAOKE、KAKEIBO（家計簿）、ファストファッションに至るまで幅広く日本製品が受け入れられていた。警察車両やタクシーも日本の車両が採用されており、世界遺産の建造物の空調設備なども日本製であった。

また、日本文化からは漫画、アニメ、寿司、などの日本食などが浸透している。寿司、弁当、「ドラえもん」などは広く一般的に知られており、「ドラえもん」は主要施設で展示会が開かれるほか、駅の表示看板のキャラクターとしても採用されているほどであった。日本のアニメも多数放映されており、「名探偵コナン」は図書館で特別コーナーが設置されるほどである。さらに、日本語や漢字が流行し、日本語のTシャツやタトゥーなども多く見かけた。

一方で、現代の日本とかけ離れた認識も実感した。例えば、映画の影響から、侍や忍者に非常に憧れを抱くといった結果、日本には侍が未だ存在しており、普段は洋服を着ているが、自宅には必ず刀KATANAを持っていると思っている人も筆者の



写真2 警察車両



写真3 文具店における日本製の強調 (From JAPAN)

周囲には多かった。彼らには「日本に行ったらどこで刀を買うことができるか教えてほしい」などと言われることが度々あった。彼らは、模造刀ではなく真剣を望んでいた。

またアニメソングを中心に、日本の歌もかなり認知されているようであるが、筆者も初めて歌詞で歌われていることもあり、驚くことが多かった。一例を挙げると、日本古謡の「さくらさくら」を「すきや～すきや～」と熱唱していた。日本人からの口頭伝承によるものであろうが、明らかに間違った歌詞であり、日本語の意味を理解せずに歌っている証拠であると感じた。

筆者は日本に興味をもってもらえることに喜びを感じる一方で、アジアの他の文化と混同されたり、現代の日本の実際とかけ離れた認識が流布していることに危機感を覚え、バルセロナ滞在中に日本の歴史や文化なども教授すべきであると考えた。



写真4 スーパーの寿司コーナー



写真5 駅の案内表示看板(サリア Sarrià 駅)

3. カタルーニャ図書館主催の4つの演奏会におけるアプローチ

3-1 スペイン音楽について

筆者はスペイン音楽研究の第一人者の博士ピアニストとして2011年より認知されているため、スペイン音楽の演奏は主催者および聴衆からの要望により、毎回プログラムに組み入れることになった。

スペインでスペイン音楽をどのように解説すれば、聴衆の深い理解を得られることができるのだろうか。

スペインにおいて、スペイン音楽作品の時代背景を語ることは、まさに「釈迦に説法」ではないかと考えたが、現地調査で音楽愛好家たちと懇談を行った際に、良い音楽としてそれをとらえるだけで、楽曲についての詳しい内容はあまり重要視していないことが明らかになった。そのため、筆者による楽曲解説は、以下の4つの観点から述べることにした。

- ①作曲家および作品の時代背景
- ②作品の構成
- ③楽曲が日本でどのように認知されているか
- ④作品の魅力

①作品の時代背景を解説することは非常に重要であると考えた。時代背景では作曲者について、短く解説を行ったほか、同時代の日本がどのようなであったかを述べた。前述のとおり、日本に対する認識はごく一部分の偏ったものであるため、このような視点は非常に重要であった。②作品の構成を解説することは、聴衆に作品の概要を知らせる役割を持つ。筆者がCasa Beethovenにおいて行った予備調査では、作品の構成について解説するかしないか、あらかじめ作品の構成を述べてから演奏したときの方が、聴衆にとって体感時間が短くなることが明らかになった。そのため、②も重要な項目で

ある。③筆者が演奏するスペイン音楽が、日本でどのように認知されているかを解説することも重要視した。一例を挙げると、グラナドス (Granados, Enrique 1867-1916) 作曲《スペイン舞曲集 *Danzas españolas*》から〈アンダルーサ *Andaluza*〉は、日本でも非常に有名な楽曲である。ピアノのみならずギター奏者も演奏すること、またスペインに関する展示会等でもBGMとして使用されている事を述べると、一同に「ふんふん」と大きく頷いて納得していた。

一方、同じグラナドスの作品でも、《ゴヤ風の情景 *Escena Goyesca*》より〈エル・ペレレ *El pelele*〉は、題名の日本語訳を日本で述べると、全く違う意味になる。「エル・ペレレ *EL Pelele*」はスペインの少女の遊びであるが、日本では「わら人形」と翻訳され、呪いや恐怖、怨念といった印象を持つ人形となることを述べた。聴衆は驚き、楽曲を通して、日本とスペインの文化の違いを実感できるのである。

④筆者が考える楽曲の魅力は、聴衆にとって最も印象深いものとなっている。伝聞ではなく、演奏者が熱弁をふるえるほど素晴らしい楽曲というものに聴衆は期待するからである。ここでは演奏技法などを短い演奏を交えながら解説した。

3-2 スペイン以外のヨーロッパの音楽について

ヨーロッパ音楽を取り上げる時、筆者は特に、スペインとのつながりを重視して解説を行った。

一例を挙げると、ドビュッシー (Debussy, Claude 1862-1918) 作曲《映像第2集 *Images II*》より〈金色のさかな *Poissons d'or*〉を取り上げた際は以下の観点から解説を行った。

- ①作曲家および作品の時代背景 ②作品のインスピレーションの源となった絵画
- ③楽曲の構成とストーリー性 ④楽曲の魅力

①ではまず、当日のプログラムでこの楽曲の前に取り上げたスペインの作曲家グラナドスとファリャ (Falla, Manuel de 1876-1946) との交友関係を述べた。次に、ドビュッシーや彼らが活躍した時代に、特筆すべき事柄があったため、それを述べた。②では作品のインスピレーションの源となった絵画の存在について述べた。これはプログラムの裏表紙にも印刷し、聴衆がじっくり見られるように配慮した。この絵画と日本の関係を述べたうえで、作曲家であるドビュッシーが日本に対してどのように考えていたのかを述べた。③では楽曲の構成とストーリー性に着目し、描写音楽として注目すべき箇所を実演を交えながら解説した。④では、この楽曲での特殊なピアノ奏法を実演を交えながら解説し、それらの魅力を述べた。

3-3 ラテンアメリカの音楽について

筆者は現在、スペイン音楽からラテンアメリカ音楽へと研究を発展させているため、演奏会では、キューバ、メキシコ、ブラジル、アルゼンチンの作曲家の作品も取り上げた。これらの楽曲は、以下の観点から解説を述べた。

- ①作曲家および作品の時代背景 ②スペイン音楽との関係性 ③楽曲の魅力

①では作曲家や作品の時代背景を述べた。②ラテンアメリカはスペインと関係が深く、歴史的な事項と作品との関係性なども重要な項目であると考えた。③ラテンアメリカの音楽はリズムに特徴があ

るため、要素ごとの魅力を実演を交えながら解説した。このような解説の後の演奏に聴衆は異常な盛り上がりを見せた。

3-4 日本の音楽について

スペインと日本の音楽的文化交流に資する演奏会としての役割も持っていたため、プログラムには日本の作品も組み込んだ。主催者からの要望により、音楽の家系に生まれ育った筆者だからこそできる祖父・平井康三郎や父・平井丈二郎の作品を演奏した。

①現在の日本について ②作曲家と作品の時代背景 ③楽曲の構成 ④楽曲の魅力

①現在の日本では、時事問題に関連して日本の紹介を行った。筆者がバルセロナに到着したのは令和の初日であった。現地のニュースでは、日本が新しい時代を迎えたことがテレビで大々的に取り上げられ、天皇陛下や上皇陛下が過去にスペイン滞在中の様子なども回顧録として放映されていた。また10月22日の即位礼正殿の儀は、翌日の新聞等でも一面等に大きく取り上げられていた。滞在中には新天皇陛下・皇后陛下御即位のニュースが何度も流れたため、そのことを演奏会で取り上げることは、聴衆にとって理解しやすい内容であった。

②は作曲家の生涯をわかりやすく解説した。特に平井康三郎の作品を取り上げる際には、作曲者が約100年前の日本で、西洋音楽をどのように学んだか、その経緯を述べた。これは、日本にどのように西洋の音楽文化が定着していったかという音楽史に繋がっている。③では楽曲に用いられている特有の旋法や、書法などを解説した。特に旋法は実演を交えながら解説したため、西洋音楽との違いを感じ取ってもらうことができた。④では楽曲の魅力を解説した。特に平井丈二郎の作品では、ピアニストの演奏技術を発揮できる書法が用いられているため、それらに聴衆が注目できるようわかりやすく述べた。

日本の音楽では、筆者はピアノ演奏だけでなく、日本歌曲も取り上げた。これは日本語の美しさや音楽表現を体感してもらいたいと考えたからである。ここでは、⑤詩人について⑥詩の形式について⑦歌詞の意味について という観点からも解説を行った。平井康三郎作品では、和歌の形式による歌詞が多かったため、和歌についても述べた。日本文化に関心のある聴衆にとっては非常に興味深い話題となり、再演を希望する声が多く寄せられた。

3-5 新作発表について

Dra.Rie HIRAI, Fashionable Classical Concert in Barcelona Vol.1では筆者自身の作品から、《オレン



写真6 即位礼正殿の儀に関するスペインでの報道 (新聞各紙2020年10月23日)

ジの風》を弾きながら歌った。この楽曲は日本の学校の風景を歌ったものであるが、スペインでは至る所にオレンジの木が生育している事から、聴衆は大変親近感を覚え、「きっとこれは自分たちの歌に違いない！」とリフレインを覚え熱唱してくれた。共通事項からの共感、大きな感動となることが明らかになった。

Dra.Rie HIRAI, Fashionable Classical Concert in Barcelona Vol.2からは、筆者の新作を発表することになった。これは、主催者から「かつての大作曲家たちが印象に残った風景や情景などを楽曲に残しているので、新作を作曲し発表してほしい」と依頼されたからである。

筆者はバルセロナ滞在中に合計6曲のピアノ作品を作曲し《カタルーニャの情景 *Escenes de Catalunya*》として発表した。それぞれ、①インスピレーションの源

となった情景、②日本との違い、③楽曲の構成、④演奏テクニックについて の観点から解説を行った。

日本人ピアニストが五感で味わった情景を作品を通して鑑賞することで、聴衆は自分たちの住む国の良さを再発見できた。このような作品発表は、現地の聴衆にとって名誉なことであるとされ、熱狂的に受け入れられた。

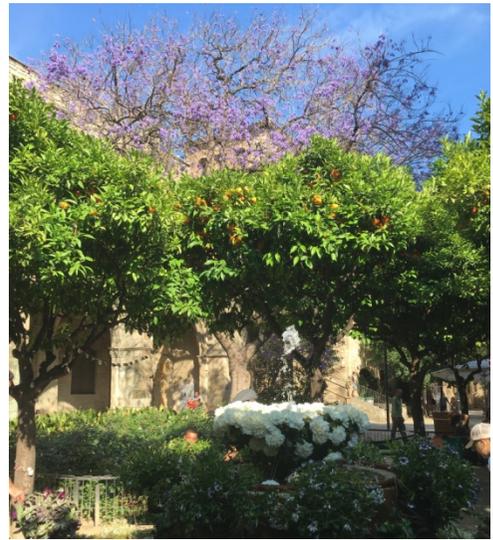


写真7 Biblioteca de Catalunya中庭のオレンジの木

3-6 アンコールについて

アンコールでは、筆者が現地調査で得た現地の流行の音楽、採取した民謡、季節の音楽、聴衆からのリクエストによる日本の音楽などを取り上げた。スペインで流行している音楽としては、*Sabor a mi*, *Amapola*などの歌曲、カタルーニャ州にとって重要な*El Sagados*、FCバルセロナの歌などが挙げられる。聴衆からのリクエストは日本アニメの音楽や映画音楽など、さらに日本古謡や文部省唱歌など幅広いジャンルから寄せられた。「ドラえもん」「名探偵コナン」「セーラームーン」「ドラゴンボール」の主題歌などは、筆者のピアノ演奏に合わせ、大合唱が起こるほどであった。クラシック音楽の演奏家であるのに、自分たちの好きな音楽もばかにすることなく演奏してくれるのがとても嬉しいと、とても喜んでくれるのである。

このように、アンコールで聴衆のリクエストに応えることも、筆者の演奏会が高評を得た要因となっている。

筆者は現地で採取した民謡もアンコールで演奏している。「こんなに面白くて素敵な歌を聴いたけれど、採譜したものの題名がわからないので、知っていたら教えて下さいね」と述べてから、演奏してみると、手拍子をしながら合唱し、終演後に題名を教えてくれることが度々あった。そして、その中の一曲は、聴衆から「あのモンポウ (Mompou, Frederico 1893-1987) もカタルーニャ民謡から変奏曲を作曲しているから、Dra.Rieもぜひ作るべきだ」と言われ、筆者の新作の主題として取り上げることとなったのである。

以下に筆者が演奏会で述べたカタルーニャ語による解説(抜粋)を掲載する。第3回は紙面の都合でプログラムのみとする。作曲者名や楽曲名はカタルーニャ語による表記方式となっている。

Dra.Rie HIRAI,FASHIONABLE CLASSICAL CONCERT IN BARCELONA VOL.1

Dijous 6 de juny de 2019 a les 20.30 h

Sala de Llevant - Biblioteca de Catalunya

Moltes gràcies per venir al meu concert. Sóc la doctora Rie HIRAI, vinc del Japó.

Sóc especialista del gran compositor espanyol Enric Granados.

Fa uns 10 anys, vaig arribar a la Biblioteca de Catalunya per a la recerca de tesi doctoral sobre Granados.La Biblioteca de Catalunya em va ajudar a la meva recerca, vaig obtenir una llicenciatura, doctor en música.Després, vaig donar concerts de piano a la Biblioteca de Catalunya.El 2012 vaig rebre el premi nacional japonès de la majoria de les activitats japoneses del món.

Després d'això, em vaig convertir en professora d'universitat al Japó.

Enguany vaig poder tornar a Barcelona amb el suport de la meva universitat i del Govern de Japó. Estic molt contenta.

Aquest any és molt especial per al Japó. En aquest mes de maig, el Japó va canviar el nom de la nova era és "Reiwa" amb nou emperador i emperadriu.

Avui tocaré les meves obres de piano preferides i les obres de piano japoneses

El títol d'aquest concert, Dra.Rie Hirai, concert clàssic de moda, és la meva sèrie de concerts. Si us plau, gaudiu del meu concert de piano. Esperem amb interès les cançons de bonificació especials al final del programa.

Enric GRANADOS : *Allegro de concierto*

El primer, Allegro de concierto, és l'obra de piano més brillant de Granados.Aquesta obra pot mostrar la meravellosa tècnica i expressió dels pianistes.

Enric GRANADOS : *Valses poéticos*

A continuació, Valses poéticos és la suite més bonica de Granados. Aquesta suite prové de

Programa**Enric GRANADOS***Allegro de concierto**Valses poéticos**Oriental (Danza española, núm. 2)**Andaluza (Danza española, núm. 5)***Ernesto LECUONA***La Comparsa**Malagueña***Kozaburo HIRAI***Sakura-Sakura**(Una fantasia per a piano)***Takejiro HIRAI***Kazaguruma (Molinet de vent)***Rie HIRAI***Breeze of Oranges (Brisa de taronges)*

El Cant del Barça**Els Segadors**

cartes d'amor.

Enric GRANADOS : *Oriental (Danza española, núm. 2)*

Les obres orientals són famoses. L'escala i les melodies àrabs són molt belles.

Enric GRANADOS : *Andaluza (Danza española, núm. 5)*

Andaluza és també l'obra més famosa de Granados, al Japó. M'encanten els sons com la guitarra i les melodies melancòliques.

Ernesto LECUONA : *La Comparsa i Malagueña*

Lecuona és el compositor més fantàstic. Puc mostrar-li la meva tècnica virtuosa. La primera és La comparsa, la segona és Malaguena.

Kozaburo HIRAI : *Sakura-Sakura (Una fantasia per a piano)*

A continuació, hi ha obres de piano japoneses. Kozaburo HIRAI és el meu gran pare. Compositor molt famós. En aquesta obra de piano, Sakura-Sakura es basa en la famosa cançó tradicional japonesa.

Sakura és una flor nacional japonesa. Secció mitjana d'aquest treball, podem escoltar el típic so del Festival japonès. El so del tambor és aquest ritme i la flauta japonesa sona.

Gaudiu de la bella primavera japonesa.

Takejiro HIRAI : *Kazaguruma (Molinet de vent)*

A continuació, la kazaguruma és el treball de piano del meu pare. Doctor Takejiro Hirai és professor de piano de l'emperadriu japonesa Masako.

Aquest treball és molt ràpid per a la tècnica d'entrenament del piano.

Rie HIRAI : *Breeze of Oranges (Brisa de taronges)*

Aquesta obra és la meua obra més famosa. Primer, vaig compondre aquesta obra per a cor o cantant solista.

Avui intento cantar amb piano en català. Tocaré cançons japoneses famoses. Si coneixeu la cançó, si us plau, canteu.

El proper concert és el dia dos de juliol. Moltes gràcies.



写真8 主催者Biblioteca de Catalunya館長による挨拶と筆者の紹介(2019年6月6日)



写真9 演奏風景

Dra.Rie HIRAI, FASHIONABLE CLASSICAL CONCERT IN BARCELONA VOL.2

Dimarts 2 de juliol de 2019 a les 20.30 h

Sala de Llevant - Biblioteca de Catalunya

Moltes gràcies per venir al meu concert. Sóc la Dotoria Rie HIRAI.

Han passat dos mesos des que vaig arribar a Barcelona És el segon concert a la Biblioteca de Catalunya, de música clàssica de moda.

Vaig veure moltes coses agradables. Les meves coses favorites a Barcelona, per exemple Els tarongers al pati d'aquesta Biblioteca, el bell blau de la Mediterrània, la sardana davant de la catedral, L'ou, com balla, el Jacaranda amb flors de color porpra i les campanes. la ciutat. M'encanta Barcelona.

Avui toco les obres dels grans compositors espanyols Granados, Falla i cançons d'art japonès.

Enric GRANADOS : *Danzas españolas: Rondalla Aragonesa (núm. 6)*

Primera peça, Rondalla aragonesa de les danses espanyoles del compositor Granados.

Enric GRANADOS : *Danzas españolas: Sardana (núm. 8)*

La següent peça és Sardana. La sardana és una dansa popular catalana. Vaig veure la gent catalana ballant de la mà davant de la catedral.

Podria ballar la sardana al festival de Sant Joan. La gent catalana m'ensenya els passos. Vaig estar molt feliç de poder ballar amb la performance de la cobra. Vaig a ballar una altra vegada, Sardana.

Programa

Enric GRANADOS

Danzas españolas:

Rondalla Aragonesa (núm. 6)

Sardana (núm. 8)

Goyescas:

Quejas o La maja y el ruiseñor

Manuel DE FALLA

El sombrero de tres picos:

Danza de los vecinos (Seguidillas)

Danza del molinero (Farruca)

Intermedi

Kozaburo HIRAI

Cançó d'art

Nara-yama (Pels turons de Nara)

Yurikago (Cançó de bressol)

Furusato no (Oh, la meua ciutat natal!)

Takejiro HIRAI

Humoresque per a piano

Cançó d'art: *Biwa no Mi*

(Fruits de nespres del Japó)

Rie HIRAI

Corazón de Jacaranda [estrena mundial]

Enric GRANADOS : *Goyescas Quejas o La maja y el ruiseñor*

A continuació, *Quejas o la maja y el ruiseñor* de Goyescas és l'obra més bonica de Granados.

Manuel DE FALLA : *El sombrero de tres picos : Danza de los vecinos (Seguidillas) Danza del molinero (Farruca)*

A continuació, es troba la famosa suite composta per Falla. Jugo a 2 peces del *El sombrero de tres picos* de la música de ballet. El disseny del barret *El sombrero de tres picos* va ser dissenyat per Picasso, però hi ha murals i museus d'art de Picasso a la ciutat de Barcelona, i estic impressionat de poder sentir-me a prop d'un home històric. Primer és *Danza de los vecinos* i, a continuació, la *Danza del molinero*.

Kozaburo HIRAI “*Cançó d'art*”

La primera part és obra del meu avi. Kozaburo Hirai va néixer fa 108 anys a la prefectura de Kochi, Japó. Igual que el cònsol japonès Sr. Goto.

El meu avi va estudiar violí i es va convertir en compositor. Fa uns 100 anys al Japó, era molt difícil aprendre els instruments occidentals. La majoria dels japonesos van tocar instruments tradicionals com el shamisen, el koto i el syakuhachi.

Aleshores, el meu avi va utilitzar tant el mode musical japonès com els estils de música occidental per a les seves obres.

Kozaburo HIRAI : *Nara-yama (Pels turons de Nara)*

Al principi, el títol és *Nara Yama*. Aquesta és l'obra més famosa del meu avi. *Narayama* és la muntanya de la prefectura de Nara. Les lletres van ser escrites per Shihoko Kitami, amic del meu avi. La lletra és *Waka*, que és un estil de poesia tradicional japonesa, amb sons de 5 7 5 7 7 fer.

Aquesta és una cançó d'amor. L'acompanyament del piano utilitza l'eco de koto i les melodies usen el mode pentatònic japonès.



写真10 開場を待つ聴衆の行列
(2019年7月2日)



写真11 筆者による解説の様子



写真12 聴衆の様子

Kozaburo HIRAI : *Yurikago (Cançó de bressol)*

Yurikago. Aquesta és una cançó de bressol per al meu pare. També vaig escoltar en la meva infància.

Kozaburo HIRAI : *Furusato no (Oh, la meva ciutat natal!)*

Les lletres de la cançó són de Takuboku Ishikawa, un dels poetes més importants del Japó. De sobte, se li va demanar de compondre música per a un concert a la regió de Tohoku del Japó, i ho va fer en un tren.



写真13 筆者による解説の様子

Takejiro HIRAI : *Humoresque per a piano*

A continuació, hi ha el treball de piano del meu pare. Doctor Takejiro Hirai és pianista i compositor. El Humoresque és una obra molt difícil, ja que ell mateix va compondre. Té una sonoritat meravellosa. Si us plau, gaudiu-ne.



写真14 日本歌曲の弾き歌い

Takejiro HIRAI : *Cançó d'art: Biwa no Mi (Fruits de nespres del Japó)*

La següent és la cançó Biwa no mi. Biwa és un fruit taronja collit al voltant de juny al Japó. Puc veure a Biwa a Barcelona també. Al juny, Japó té la temporada de pluges. Però de vegades tenim dies assolellats. Aquesta cançó és la bella escena del Biwa i el cel blau després de la pluja.

Rie HIRAI : *Corazón de Jacaranda [estrena mundial]*

El següent és el meu treball. Avui és l'estrena mundial.

El títol de Corazón de Jacaranda. Barcelona em va impressionar. El títol de les belles flors de color porpra al gran arbre davant de la biblioteca. El so de les campanes que em diu l'hora. És molt interessant per a mi. Podeu escoltar les campanes en el meu treball. Vaig escriure la composició a aquest ric piano. Si us plau escolta.



写真15 Biblioteca de Catalunyaとジャカランダ

Avui, vénen els nens, així que vull demanar una sol·licitud.

Tinc un llibre de cançons de Catalunya. Interpretaré una cançó famosa.

Gràcies per venir el meu concert.

Dra.Rie HIRAI, FASHIONABLE CLASSICAL CONCERT IN BARCELONA VOL.3

Dimecres 4 de desembre de 2019

a les 7 de la tarda

Arxiu Maragall - Biblioteca de Catalunya

Programa**Enric GRANADOS***Allegro de Concierto***Astor PIAZZOLLA***Milonga del Ángel**Invierno Porteño***Ernesto NAZARETH***Odéon (Tango Brasileiro)***Manuel PONCE***Estrellita***Kozaburo HIRAI***Sakura-Sakura (Una fantasia per a piano)***Intermedi****Rie HIRAI***Escenes de Catalunya (2019) Estrena*

"Cor de xicranda"

"Vals de Les Rambles"

"Llums i ombres del Gòtic"

"La Catedral i les bombolles de sabó"

"Paradís estival de Malgrat de Mar"

Variacions de la cançó popular catalana "L'airet de la matinada"

Selecció de nadales

写真16 演奏風景 (2019年12月4日)

Dra.Rie HIRAI, FASHIONABLE CLASSICAL CONCERT IN BARCELONA VOL.4

Dimecres 11 de desembre de 2019

a dos quarts de 9 del vespre

Sala de Llevant - Biblioteca de Catalunya

Moltes gràcies per venir al meu concert. Sóc la doctora Rie HIRAI.

Avui és l'últim concert de Dra.Rie Fashionable, classical concert, in Barcelona.

Aquest any estic a Barcelona per a la recerca de la música espanyola a la Biblioteca de Catalunya. És una experiència molt feliç per a mi.

Enric GRANADOS : *Danzas españolas* :Andaluza

La primera peça, Andaluza de dansa espanyola composta per Granados.

Crec que aquesta peça és la composició de Granados més famosa del món.

Enric GRANADOS : *El Pelele (Escena goyesca)*

A continuació, El pelele, composta per Granados. Es compon de l'obertura de l'òpera Goyescas.

Per primera vegada, em va sorprendre molt veure aquest títol. Perquè en el cas del Japó, El pelele és el símbol del mal encanteri. Però a Espanya, és diferent. El pelele va quedar impressionat pel tapís del gran pintor Goya. És el joc de les nenes amb El pelele. Aquesta és l'escena molt feliç.

Programa

Enric GRANADOS

Andaluza

El Pelele (Escena goyesca)

Manuel DE FALLA

El amor brujo

"Pantomima"

"A media noche"

"Danza ritual del fuego"

Claude DEBUSSY

Poissons d'or

Rie HIRAI

Escenes de Catalunya (2019) Estrena

"Cor de xicranda"

"Vals de Les Rambles"

"Llums i ombres del Gòtic"

"La Catedral i les bombolles de sabó"

"Paradís estival de Malgrat de Mar"

Variacions de la cançó popular catalana

"L'airet de la matinada"

Selecció de nadales

El desembre congelat

Fum, Fum, Fum

Santa Nit

Navidad, navida(Jingle bells)

El noi de la mare

Joia en el Món

Manuel DE FALLA : *El amor brujo* “Pantomima” “A media noche” “Danza ritual del fuego”

A continuació, 3 peces estan compostes per Falla. Recentment El Amor Brujo és molt famós al Japó. Perquè vaig publicar aquesta suite des del Japó.

Avui toco pantomima, Media Noche i Danza ritual del fuego.

A Media nit, podeu comptar les campanes que sonen 12 vegades. després d'això, podeu escoltar les paraules d'encanteri, iniciant el ball de foc.



写真17 演奏風景(2019年12月11日)

Claude DEBUSSY : *Poissons d'or*

Propera peça, Poissons d'or composta per Claude Debussy.

Consulteu el programa.

Aquesta composició va quedar impressionada pel quadre japonès.

A la darrera del segle 19, París tenia moltes exposicions mundials. El Japó aporta moltes coses a l'exposició mundial i molts europeus recullen coses japoneses. Aquesta imatge també. Aquesta composició té una història molt interessant. Dos peixos daurats viuen a la bonica bassa. L'aigua és clara i brillant. Debussy utilitzava aquests sons per a l'aigua. I aquesta és la melodia dels peixos daurats. Aquest so és brillant. Però gran esdeveniment. El gat dolent arriba per allà. El gat vol agafar el peix. Aquest és el



写真18 *Poissons d'or*

tema del gat. Gat que s'acosta a l'estany. Els peixos lluiten contra el gat. Aquesta és una escena molt emocionant. Després dels combats, el gat va desaparèixer. Vida feliç de nou pels peixos daurats. Gaudeix de la gran composició inspirada en un quadre japonès.

Intermedi

Rie HIRAI : *Escenes de Catalunya (2019) Estrena*

Interpretaré les meves composicions *Escenes de Catalunya* (estrena)

Podria llegir les lletres personals del gran compositor a Biblioteca de Catalunya. Podria saber que el meu compositor preferit, Granados, estava pensant. Per tant vaig compondre la meva escena preferida de Barcelona de Catalunya. Perquè voldria lliurar el bonic escenari de Catalunya al Japó i a les meves persones precioses igual que Granados.



写真19 新作《カタルーニャの情景》について語る筆者

“Cor de xicranda”

La primera peça és el títol de cor de Jacaranda. Al juny a juliol, vaig veure aquelles flors molt boniques al jardí de la BC. El nom és Jacaranda. És tan bonic i vaig poder veure a Jacaranda molts llocs de Barcelona. Jacaranda es va convertir en les meves flors preferides. Vaig compondre aquesta peça utilitzant l'harmonia del so de les campanes de l'Església. Gaudeix del so molt ric del piano.

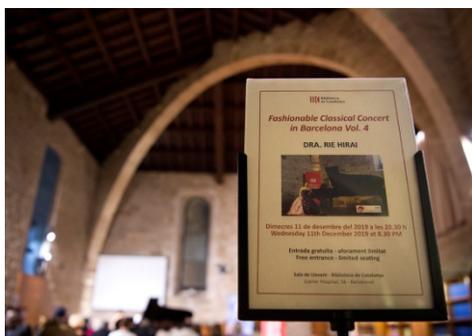


写真20 会場の様子

“Vals de Les Rambles”

A continuació, Vals de les Rambles.

Visc a la Rambla. Aquest carrer és fantàstic per a mi. Ramblas compta amb bells hotels, gelateries, botigues de flors, botigues de records, restaurants i molt més. Sempre gent somrient per caminar. Per tant vaig compondre el feliç vals.

“Llums i ombres del Gòtic”

Aquesta peça està impressionada per l'àrea gòtica de Barcelona. És una zona antiga plena d'arquitectura històrica. Per passejar en escena, faig servir el ritme de la sardana. Al carrer molt estret, els meus pensaments van a l'època antiga. Podeu trobar la melodia i l'harmonia melancòliques.

“La Catedral i les bombolles de sabó”

Al davant de la catedral, vaig veure moltes bombolles de sabó. Les bombolles volen cap a la

catedral en el cel blau. Podeu escoltar cor molt bonic de la catedral.

“Paradís estival de Malgrat de Mar”

És un bonic estiu de Malgrat de mar. Vaig estar a Malgrat moltes vegades amb la Rosa. Vaig nedar la mar mediterrània. El temps passava molt lentament en aquell lloc. L'acompanyament expressa el moviment d'ona.

Variacions de la cançó popular catalana “L'airet de la matinada”

Octubre, vaig escoltar una cançó popular catalana molt interessant a Gracia. Cantant i ballant em va impressionar molt. Per tant vaig compondre la variació en aquesta cançó.

Selecció de nadesles

Estic molt impressionat per la il·luminació nadalenca de Barcelona. És tan bonic. A continuació es mostren cançons de Nadal. Si coneixeu les cançons, cantareu-les.

Moltes gràcies.

Escenes de Catalunya Vol.I 《カタルーニヤの情景》 第1集 Dr.Rie HIRAI		Escenes de Catalunya Vol.II 《カタルーニヤの情景》 第2集 Dr.Rie HIRAI	
I	Corazón de Jacarandá ジャカラダの心 Heart of Jacarandá	IV	La Catedral i les bombolles de sabó カテドラルとシャボン玉 The Cathedral and Soap bubbles
II	Vals de Les Rambles ワルツ・ランブラスのこもれび Waltz of The Rambles	V	Paradís estival de Malgrat de Mar 真夏の楽園 マルグラット・ダ・マール Summer paradise of Malgrat de Mar
III	Llums i ombres del Gòtic ゴシック街の光と影 Light and Shadow of Gothic Quarter	VI	Variacions de la cançó popular catalana “L'airet de la matinada” カタルーニヤ民謡《朝の空気》の 主題による変奏曲 Variations on Catalan folksong “L'airet de la matinada(Air of the morning)”

4. おわりに

音や音楽に寛容な社会が形成されているカタルーニヤにおいて、筆者の解説付き演奏会は、新たな演奏会スタイルとして驚きを持って受け入れられた。筆者の演奏会では、音楽だけに留まらず作曲者の時代背景、交友関係、その時代に起きた様々な事柄、日本との関係など多岐にわたる情報を知ることができるよう構成している。聴衆は予備知識なしに来場しても、新たな知を獲得することができるのである。楽曲についての知識を得てからすぐに鑑賞することで、音楽をより深く理解することができ、それが新たな楽しみとなったのである。ここで得られた知識と感動は、もう一回聴きたい、他の

楽曲も聴きたい、もっと知りたいという興味へとつながるものとなった。さらには「良いもの」、「素晴らしいもの」は家族や知人、その他幅広い人たちと共有したいという民族性から、SNS等で拡散されるのである。このような連鎖により、筆者は60回もの公演を行うことになったのである。

音楽を感受するとき、漫然と受け入れるだけではなく、深く理解し、その機会を通してさらに能動的に彼らが新しいものへ興味を持つという連鎖の継続性は、これまでのクラシック音楽演奏会の概念を大きく変え、新なる需要につながるものであると確信している。

そもそもクラシック音楽は、ヨーロッパにおいて貴族の楽しみであったため、高貴な音楽としてあまり身近な存在とは言えないかもしれない。従来のように演奏者が何も話さないスタイルの演奏会こそが、聴衆に高い教養を求め、敷居を高くしていることは、日本もスペインも同様であった。音楽を聴くとすぐに立ち上がって踊りたくなる民族性を理性で抑え込んで、座席にじっと座っていなければならないとは、カタルーニャの人々にとってなんという苦痛だったであろうか。今回の研究を通して、筆者が確立した「聴衆の共感や好奇心を刺激するアプローチ法」は、日本だけでなくスペインでも効果があった。

演奏者自身によるカタルーニャ語による楽曲解説は、演奏曲に対し理解と親しみ深める効果があり、より深く聴衆の心に印象付けられる。その効果は同じ楽曲を何度も演奏するよう依頼されることから明らかとなった。

今回の実践研究が成功した要因には、演奏者自身がこれまでに音楽に対して深い研究を重ね、確信を持って聴衆に解説し演奏を行ったことが挙げられる。確かな研究に基づいた専門的な見地からの解説と演奏者が自信をもって楽曲の魅力を語ることで、演奏の直前に行われることで聴衆に寄り添い、クラシック音楽への深い理解と新たなる関心へとつながったといえよう。

参考文献

平井李枝

- 2015 A 文化庁事業「Dr.りえのおしゃれなクラシック」の実施による小学校音楽鑑賞教育法の研究(1) 宇都宮大学教育学部紀要. 第1部 (65) 155-165.
- 2015 B 文化庁事業「Dr.りえのおしゃれなクラシック」の実施による小学校音楽鑑賞教育法の研究(2) 一子供の鑑賞能力の発達に着目して— 宇都宮大学教育学部教育実践紀要 第1号 89-96.
- 2017 オリンピック・パラリンピック教育としての音楽鑑賞 —世界地図を用いた音楽鑑賞指導の研究— 宇都宮大学教育学部研究紀要. 第1部 第67号 105-118.

令和2年10月1日受理

Comperative studies on receptivity of music in
people of Spain and Japan Vol.1
—Based on analysis of concerts
"Dra.Rie HIRAI, Fashionable Classical Concert"
organized by Biblioteca de Catalunya—

HIRAI Rie